

ダイバーシティ事業 国際共同若手研究者養成プログラム
報告書

報告日：2020年4月7日

派遣者所属名	工学研究科
派遣者氏名	近藤 民代
研究タイトル	低頻度メガリスク型沿岸域災害における居住環境復興メカニズムの解明
研究目的	<p>下記2つの研究を通して、低頻度メガリスク型沿岸域災害における居住環境復興メカニズムを明らかにする。</p> <p>1) 低頻度メガリスク型沿岸域災害における減災復興都市計画に関する研究 東日本大震災の被災2市を事例としたケース・スタディを通して、減災復興都市計画と被災者の居住地移動による被災市街地空間変容を明らかにし、都市のリバビリティ（住みやすさ）に与えた二次的影響を明らかにする。</p> <p>2) 低頻度メガリスク型沿岸域災害で発生する都市の穴への適応に関する研究 東日本大震災とハリケーン・カトリーナ災害で発生した都市の穴（災害空地）に対する適応策の効果の比較分析を行い、地域のリバビリティに与えた影響を明らかにする。</p>
研究の進捗状況について	<p>上記の1)：2020年4月下旬にリサラルデ教授（モントリオール大）との国際共著論文（#1）を投稿する予定である。これに続いて投稿する論文のデータ取得と分析は派遣期間にほぼ完了しており、2020年度にはこれらを論文（#2, 3）として取りまとめ成果を発信していく。</p> <p>上記2) トーマス准教授（モントリオール大）と共に企画した米国テューレーン大学教員との共同セミナーおよび共同研究活動は新型コロナウイルスに伴い、実施することが出来ずに終わった。派遣期間中に出版した著書（米国の巨大水害と住宅復興、日本経済評論社、2020年3月）を活かした日米の災害復興比較研究を活かして研究を継続していく予定である。</p>
今後の研究の見通し	<p>1) 共同研究の成果を活かし、リサラルデ教授が学会長を務める復興に関する国際学会（i-Rec: INFORMATION AND RESEARCH FOR RECONSTRUCTION）の第10回大会を2021年（東日本大震災10年）に東北に招致することが内定した。これを機会に国際的な研究ネットワークをより強固に広げていくために、派遣者が中核的な役割を果たしていく。</p> <p>2) 2020年度は日米の被災地フィールドでの調査が困難であるため、既存のデータ（土地・建築物のGISデータ、国勢調査メッシュデータ）や航空写真などを用いて共同研究を継続していく予定である。研究の打ち合わせはZoomやSkypeなどを用いて定期的に行う。</p> <p>いずれの研究も派遣者が代表を務める科研基盤B（17H02070）を用いる。</p>

海外派遣終了後の研究の進捗状況（2020年4月現在）

2020年4月下旬に国際共著論文を投稿する予定です。